

1 目 的

当院に勤務する医師及び看護職員について、他職種との役割分担及び勤務環境の改善項目を明らかにしながら、医師及び看護職員の負担軽減に資する計画を策定しようとするものである。

このことにより、医師が専門性を必要とする業務に専念できるとともに、当院における効率的な業務運営を図りながら、良質な医療サービスを継続的に提供しようとするものである。

2 医師及び看護職員と関係職種との役割分担の推進（別表参考）

医師及び看護職員の負担の軽減に資するため、医師及び看護職員と関係職種との役割分担について、「医師及び医療関係職種と事務職員等との間での役割分担の推進について」（医政発第1228001号）に基づくほか、当院の実情を勘案して別表のとおり定める。

3 地域の医療機関等との役割分担の推進 地域医療支援病院承認

(1) 地域連携(逆紹介)の推進

・地域の医療機関等との役割分担を進め、逆紹介率を向上するほか、紹介患者を優先する体制を構築するため、紹介外による初診患者制限を行うとともに、完全予約制の導入を検討すること等により、外来における医師及び看護職員の負担の軽減を図る。本推進は、医療法における地域医療支援病院承認に向けた取組みと併施する。

(2) 退院支援の強化

・退院(入院)支援看護師の配置により、地域の医療機関等への円滑な患者紹介を行うとともに、医師及び看護職員の負担の軽減を図る。

(3) 地域医療福祉連携室の活用

・上記(1)(2)を円滑に進めるため、地域医療福祉連携室を活用する。

4 看護補助者の適正数配置

看護職員の業務負担を軽減するとともに、看護職員がその専門性を発揮して業務に専念できる環境を実現するため、看護補助者の適正数配置を行う。なお、看護補助者の業務については別表により定める。

5 院内職員に対する周知

院内広報や院内医療情報システムを効果的に使用し、院内職員に周知するとともに、定例の管理会議等において計画を周知し、必要に応じて業務状況等の報告を行う。

6 責任者の配置

医師及び看護職員の負担の軽減及び処遇に改善に関して、医師及び看護職員の勤務状況の把握及びその改善の必要性等について提言することを目的として、院内に責任者を配置する。(医局長)

7 多職種からなる役割分担推進のための委員会の設置

医師及び看護職員の負担軽減に資する計画をより実効あるものとするため、院内に他職種からなる役割分担推進のための委員会(勤務医の負担軽減等に関する委員会)を設置し、計画の達成状況の評価や勤務医の勤務時間及び当直を含めた夜間の勤務状況の把握(超過勤務手当の定率分の廃止による超過勤務時間の時間管理の実施)、特定の個人に業務負担が集中しないよう配慮した勤務体系の策定、計画について職員への周知徹底を図る。

医師及び看護師の負担の軽減に資する医師と関係職種の役割分担について

職 種	
医療クラーク	① 具体的な業務内容等については、別途院内規程を定めて運用する。 ② 医師事務作業補助者の有効活用 ③ 業務内容の調査と医師のニーズを把握 ④ 医師事務作業補助者の適正配置の検討
看護師	① 医師の事前指示に基づき、その範囲内で行う患者の病態に応じた薬剤の投与量調整に関すること。 ② 医師の指示の下に行う静脈注射及び留置針によるルート確保に関すること。 ・静脈注射の安全実施に関する研修の開催 ・静脈注射の実施に関する看護手順の見直し ③ 救急来院患者に対する診療優先順位の判断に関すること。 ・院内における対応方針の整備 ・院内トリアージを行う専任の看護師の拡大と教育 ④ 初診時の予診の実施 ⑤ 医師の指示の下に行うCVポート管理に関すること。 ・CVポート穿刺の安全実施に関する研修の開催 ・CVポート穿刺の実施に関する看護手順の見直し ⑥ 入院中の患者に係る清潔保持方法等の療養生活全般について、医師の治療方針や患者の状態を踏まえての積極的対応に関すること。
薬剤師	① 病棟薬剤業務(病棟に薬剤師が週20時間常駐) ・持参薬鑑別報告と継続使用確認 ・病棟における薬剤(注射剤、内服剤等)に関するインシデント・アクシデントの減少 ・投薬以後の薬学的管理(薬剤の投与量、投与方法、相互作用、重複投与、配合変化、配合禁忌等の確認) ② 服薬指導の実施 ③ 化学療法安全管理体制の強化 ・抗がん剤調製 ・レジメン監査 ・インフォームドコンセント業務支援
診療放射線技師	① 手術室におけるレントゲン撮影
臨床検査技師	① 臨床検査技師による超音波検査の推進 ② 皮膚瞼流圧検査(SPP)の推進 ③ 栄養サポートチーム(NST)、感染症対策チーム(ICT)等における業務支援
臨床工学技士	① 医療機器の中央管理、効率的な運用 ・生命維持装置の適正なメンテナンス ・病棟人工呼吸器装着患者に対する定期的なラウンドによる設定確認、安全管理 ② オンコール体制による心臓カテーテル業務、その他医療機器トラブル対応
看護補助者	① 退院後の患者の空きベッド及び離床可能患者のベッドに係るベッドメイキングに関すること。 ② 診療材料及び検体の運搬・補充に関すること。 ③ 検査室等への患者案内及び移送に関すること。 ④ 入院患者に対する食事の配膳に関すること。 ⑤ 検査予定患者への検査説明 ⑥ 検査・処置に必要な物品の準備 ⑦ 予約入院患者への入院案内の説明 ⑧ 看護補助者の増員
医療福祉相談	① 退院支援及びがん相談支援の強化
管理栄養士	① 栄養サポートチームの推進

その他基本方針 チーム医療を推進し医師及び看護師の負担軽減を図る。

令和8年度 胆沢病院勤務医の負担軽減計画

令和8年4月1日

職 種	現 状	令和8年度の目標	目標達成のために必要な手順等	達成度のチェック										備 考
				前年度実績	4月～6月(3ヶ月)		4月～9月(6ヶ月)		4月～12月(9ヶ月)		4月～3月(年間)			
看護科	・創傷管理関連特定行為研修修了者2名が活動を維持することで、前年度の件数を落とさず医師の負担軽減につなげている。整形外科からの依頼件数も増え、この分野の需要は増している。	1.創傷管理関連 1) デブリードマン 2) 局所陰圧閉鎖療法	・病棟及び外来での、創傷関連特定行為を実施し、年間200件以上の件数を維持する 1) 1件15分 2) 1件30分で計算する	145 %	☐	%	☐	%	☐	%	☐	%		
	呼吸器関連特定行為研修修了者が2名となり、特定行為に関する宣伝活動を行い下半期から実施件数が伸びた。 HCUが稼働し、重症患者は集中管理となる。分野への需要は増えると予測される。	2.呼吸器関連 ①IPPV設定 ・NPPV設定 ②気管カニューレ交換 ③気管チューブ位置調整 ④レスピレーター患者の鎮静薬調整 ⑤人工呼吸器からの離脱	・1呼吸器関連特定行為についての情報発信、特定行為修了者との業務調整を行い目標件数を実施する (※ 目標25件/年) ①～⑤ 1件15分で計算する	140 %	☐	%	☐	%	☐	%	☐	%		
薬剤科	・腎移植後外来患者の薬剤管理状況等の確認に時間を要している	・腎移植後外来患者への薬学的管理等について実施	・対象患者に対する薬品適正使用に向けた指導や医師への処方提案等	90 %	☐	%	☐	%	☐	%	☐	%	4月-6月: 件 4月-9月: 件 4月-12月: 件 4月-3月: 件	
	・外来心臓リハビリテーション患者への薬剤管理状況等の確認に時間を要している	・外来心臓リハビリテーション患者への薬学的管理等について実施	・対象患者に対する薬品適正使用に向けた指導や医師への処方提案等	95 %	☐	%	☐	%	☐	%	☐	%	4月-6月: 件 4月-9月: 件 4月-12月: 件 4月-3月: 件	
	・時間外の持参薬継続処方オーダーが多い。	事前に作成及び合意されたプロトコールに基づく持参薬継続指示のある薬剤の処方代行の実施	一部病棟・診療科より実施、1件10分で計算。	90 %	☐	%	☐	%	☐	%	☐	%	4月-6月: 件 4月-9月: 件 4月-12月: 件 4月-3月: 件	
放射線技術科	・検査オーダーの入力は医師、クラークのみ実施できるが、緊急時など医師よりオーダーの入力を依頼される事がある。	・緊急時、医師の事前の具体的指示に基づき、撮影部位や検査内容を確認しオーダーの変更、追加や検査オーダーの代行入力を実施。	・検査オーダー代行入力の必要性の理解、運用の確認とフローの確立。 目標値: 5件/週 年間215件 (5分/件) →18時間	145 %	☐	%	☐	%	☐	%	☐	%		
	・放射線画像に異常所見が認められた場合、技師が客観的情報を医師に報告する事としているが、全ての技師が積極的に報告するに至っていない。	・読影トレーニングを定期的に行い、少なくとも生命予後にかかわる緊急性の高い疾患の所見報告を行う。	・読影トレーニングの年間計画作成と報告目標数の設定。 STAT画像所見報告件数目標: 10件/人/年	140 %	☐	%	☐	%	☐	%	☐	%		
臨床検査技術科	緊急時の超音波検査に対応できる時間的余裕がない	超音波検査のオンコール検査に対応する	超音波検査担当の技師増員とトレーニング	90 %	☐	%	☐	%	☐	%	☐	%		
リハビリテーション技術科	・リハビリ開始に伴う説明等において、医師からの説明だけでは患者の理解が不十分な場合がある。	・評価内容や実施プログラム詳細など、より専門的な説明をリハ部門から補足することで患者の理解を高める。	・実施計画書、目標設定支援シート、退院時リハビリテーション指導などリハビリや指導実施時に療法士がより専門的・具体的な説明を行う。	95 %	☐	%	☐	%	☐	%	☐	%		

令和8年度 胆沢病院勤務医の負担軽減計画

令和8年4月1日

職 種	現 状	令和8年度の目標	目標達成のために必要な手順等	達成度のチェック								備 考	
				前年度実績	4月～6月(3ヶ月)		4月～9月(6ヶ月)		4月～12月(9ヶ月)		4月～3月(年間)		
臨床工学技術科	心臓カテーテル検査や治療の準備を医師が行っている。	医師不足時、心臓カテーテル検査の準備や消毒を臨床工学技士が実施。	心臓カテーテル検査の知識の習得と必要物品の把握	60 %	☐	%	☐	%	☐	%	☐	%	
栄養管理科	・栄養管理科のマnpワ-不足等により、低栄養患者や食欲不振患者を十分に抽出できていなかった。	・栄養介入が必要な患者を速やかに把握し、栄養指導やNST等で対応する。	・対象患者の抽出を病棟担当管理栄養士が分担して行うことにより効率化を図る。	70 %	☐	%	☐	%	☐	%	☐	%	
地域医療福祉連携室	・入退院支援について、医師及び看護師が行っていた ・がん相談支援について、医師及び看護師が行っていた	・連携室内業務ミーティングによる各種事業や業務（入退院支援、がん相談、地域医療連携業務等）へのチームビルディングを円滑に行うことによる医師の負担軽減を目指す。 ・退院支援看護師の複数配置、がん相談支援センターの設置等により医師の負担軽減を目指す（継続実施）	・入退院支援センターにおいて、栄養指導介入が必要と思われる患者を医師へ提案する。肺血栓塞栓症リスク評価の補助を行う。 ・連携パスの対象疾患拡大、運用管理。	80 %	☐	%	☐	%	☐	%	☐	%	
医療クラーク	・各診療科、各医師の診療実態に見合った医療クラークの配置になっていない	・診療実態に合わせた配置の見直し	・R7年度に実施した少数配置科へのフォロー体制の見直しを継続。	90 %	☐	%	☐	%	☐	%	☐	%	・フォロー体制に見直しが必要か見極めるため、実際の稼働状況について確認を進めている。 ・現場での課題に合わせた解決策を検討。
	・次世代への人材育成が十分とはいえない	・クラーク業務の質の向上とスキルアップを図る	・複数診療科の担当者をグループ化する等の検討を進め、全体としての業務効率化、スキルアップを目指す。	80 %	☐	%	☐	%	☐	%	☐	%	
	・配置先による業務量の格差がある	・業務量の平準化		80 %	☐	%	☐	%	☐	%	☐	%	

令和8年度 胆沢病院看護職員の負担軽減計画

令和8年4月1日

職 種	現 状	令和8年度の目標	目標達成のために必要な手順等	達成度のチェック								備 考	
				前年度実績	4月～6月(3ヶ月)		4月～9月(6ヶ月)		4月～12月(9ヶ月)		4月～3月(年間)		
薬 剤 科	・ 時間外の持参薬継続処方オーダーが多く、結果、看護師の配薬管理のため、時間外業務に影響している。	・ 持参薬継続指示の代行オーダー（一部） → 時間外の処方オーダー減少 → 看護師の時間外業務負担軽減	・ 持参薬継続指示について薬剤師が代行処方する（一部の病棟）	90 %	□	%	□	%	□	%	□	%	4月～6月： 件 4月～9月： 件 4月～12月： 件 4月～3月： 件
放射線技術科	・ CT撮影の検査説明や被ばくの相談など専門的な内容が必要となっている。	・ CT撮影について、被ばくの相談や検査内容など専門的な説明を実施。	・ 患者説明用資料の整備と被ばく相談に関するトレーニングの実施。	90 %	□	%	□	%	□	%	□	%	
	・ 造影検査および核医学検査で薬剤を投与するための静脈路確保を主に看護師が行っている。技師は4名が対応可能である。	・ 技師による静脈路確保がより円滑に進むよう対応できる技師を10名育成する。 副作用発生時に対応出来るよう、シュミレーションの実施	①静脈路確保スタッフの育成 ②シュミレーションの実施	54.8 %	□	%	□	%	□	%	□	%	
臨床検査技術科	・ 中央処置室の患者の採血待ち時間が増大している。	・ 採血業務時間の継続拡大（応援要請時の対応も含む） ・ 採血管準備システム導入に伴う効率的な動線の確保と待ち時間軽減	①マンパワーの確保、新人の育成 ②科内の体制の整備 ③中央処置室スタッフとの打ち合わせ	80 %	□	%	□	%	□	%	□	%	患者・職員動線の確認
リハビリテーション技術科	・ 患者の実用的な姿勢保持、動作能力の把握が不十分な場面が否めない。	より早期の患者の動作能力の共有、病棟ADLの拡大	電子カルテ、カンファレンス等を通して実用的な移動手段やADLの共有を図る	75 %	□	%	□	%	□	%	□	%	
臨床工学技術科	シャントPTAは記録などの外回りと介助業務を看護科2名で行っている。	シャントPTAの介助業務をCEが実施。	スタッフの育成	60 %	□	%	□	%	□	%	□	%	
栄養管理科	・ 食欲不振患者や低栄養患者等の食事調整を行い、食事オーダーの代行入力を看護師が実施していることが多い。	・ 食欲や嗜好の確認 ・ 必要栄養量や摂取栄養量の評価 ・ 食事に関する相談対応	・ 病棟担当制の充実。 ・ 栄養管理計画書作成時やモニタリングの際に栄養評価を行い、必要に応じた介入をおこなう。	80 %	□	%	□	%	□	%	□	%	

令和8年度 タスクシフト・シェアの取組内訳

病院名	胆沢病院
-----	------

No	新規・継続	医師の労働時間短縮に向けた実施計画 (業務内容)	左記の対象 診療科名	医師から他職種へ (担当職種)	主な場面	シフト・ シェア別	数値目標 医師の労働時間の 短縮時間 (推計)	達成状況 4月～6月	達成状況 4月～9月	達成状況 4月～12月	達成状況 4月～3月	取組開始年月
1	継続	新たな特定行為業務の推進(創傷関連・呼吸器関連・栄養及び水分管理)	全科	特定看護師	病棟・外来	シェア	150.0					令和4年4月1日
2	継続	化学療法も含め、CVポート針穿刺を看護師が施行	全科	看護師	外来・病棟	シフト	100.0					令和2年10月1日
3	継続	夜間緊急入院のベッドコントロールを各病棟の夜勤リーダーが行うことで、速やかな入院へと繋げる。	全科	看護師	外来・病棟	シフト	150.0					令和4年4月1日
4	継続	事前に作成及び合意されたプロトコールに基づく含量規格や剤形等の処方内容の薬剤による変更	全科	薬剤師	病棟	シフト	210.0					令和2年10月1日
5	新規	事前に作成及び合意されたプロトコールに基づく持参薬継続指示のある薬剤の処方代行入力	全科	薬剤師	病棟	シフト	100.0					令和8年4月1日
6	継続	R I 検査前の同意書取得と、副作用説明及び問診の実施	全科	診療放射線技師	外来・病棟	シフト	30.0					令和2年10月1日
7	継続	救急検査オーダーの代行入力の実施	全科	診療放射線技師	外来・病棟	シェア	20.0					令和4年4月1日
8	新規	造影検査・核医学検査の静脈路確保および抜針	全科	診療放射線技師	外来	シフト	60.0					令和7年4月1日
9	継続	心エコー枠の増設(負荷心エコー) 及びオンコールエコーの柔軟な対応	循環器内科 ほか	臨床検査技師	外来	シフト	168.0					令和6年4月1日
10	継続	技師による手術材料切り出し (虫垂・胆嚢)	病理・外科	臨床検査技師	入院	シェア	20.0					令和7年4月1日
11	継続	リハビリテーション実施計画書の作成と患者への説明	全科	理学療法士等	病棟	シフト	1,240.0					令和2年10月1日
12	継続	リハビリテーション目標設定等支援管理シートの作成	全科	理学療法士等	病棟	シフト	170.0					令和2年10月1日
13	継続	廃用症候群に係わる評価表の作成補助	全科	理学療法士等	病棟	シェア	120.0					令和5年4月1日
14	継続	不整脈アブレーション時のCEによるケーブル・カテーテルのセットアップ	循環器内科	臨床工学技士	病棟	シフト	50.0					令和4年4月1日
15	継続	食事オーダー・栄養食事指導オーダーの代行登録の実施	全科	管理栄養士	病棟	シェア	420.0					令和2年10月1日
16	継続	低栄養状態患者に対する食事調整及び栄養プランの提案、経腸栄養プランの提案	全科	管理栄養士	病棟	シェア	504.0					令和2年10月1日
合計							3,512.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

注) 短縮時間 (推計) は、取組による医師の労働時間の短縮見込時間を記載すること。